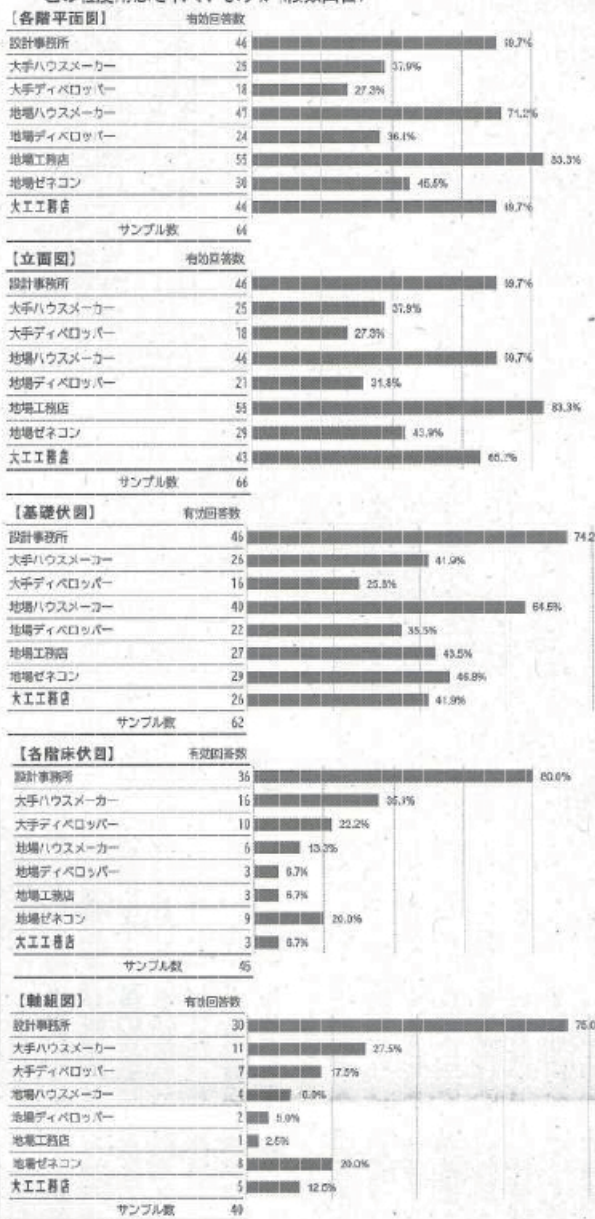


4号特例縮小に向けて プレカット工場に求められる機能とは

受注先の会社形態によって、プレカット図を作成するため設計図書はどの程度用意されていますか(複数回答)



シーデクセマ 評議会調査

シーデクセマ評議会(藤澤好一理事長)は、今年4月から4号特例が縮小されることに対して、プレカット工場が工務店に対してどう対応したら良いのか、課題をさぐるために宮川工機(愛知県豊橋市、宮川嘉隆社長)の協力を得てアンケート調査した(2024年11月13日付既報)。

住宅会社との協力不可欠

アンケートによると、事務所8・0%など、回答を得たプレカット工場では、プレカット工場では住宅着工が減少するなかで新たな受注先として、大手ハウスメーカー0・0坪、平均値は2万7062坪、受注した取り組みを強化する動きが活発だ。今回のアンケート結果では受注物の比率は「90%以上100%未満」31・8%、「80%以上90%未満」30・3%と高く、有効回答70件の平均は13・4%、最大値は50%、中央値は10%を示している。

受注先の会社形態は関係の区別を考慮され平均値で地場工務店36・2%、地場ハウスメーカー22・5%、大工工務や地場工務店などでは店員3%、大手ハウスメーカー10・9%、設計メーカー10・9%、設計事務所では設計図と併せて「そう思う」が83・1%と高い。その一方で建築確認や性能評価の構造図として求められた場合、「構造設計者としての責任を」としての責任を



シーデクセマ(CEDXM)は、木造軸組工法住宅にかかわる建築CADとプレカットCADとのデータ連携を目的とした標準ファイルフォーマットです。当評議会は、このシーデクセマの保全、更新、拡張のための活動

業界のDX化を推進

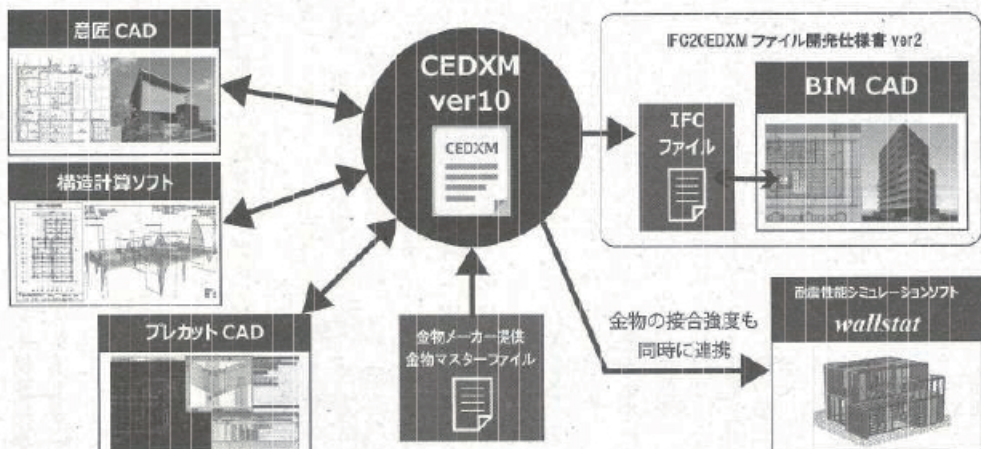
藤澤好一理事長

取得済みや作成への協力、建物モデルの自動生成への協力。近年は、次の領域への取り組みも進めており、業界でのDX化(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みへの貢献、寄与に期待を込めております。

プレカット工場が設計しないことも指摘され、プレカット工場の役割の違ひなどがあまた、プレカットの依頼の際に基礎設計まで実施するかについて「検討していません」が44・3%と増える。「受けない」は25・7%、「わからない」が30・0%。今後、基礎の構造設計ができる設計事務所との協業でプレカット工場の新しい事業領域が広がるかもしれない。プレカット工場から設計者に対して要望事項として、意匠、平面図、軸組図、基礎伏図などの設計図書の差異が発生し、確認に時間がかかり入力負担が増している。設計者自身の確認の必要が求められる。

CAD連携のその先へ

CEDXMがつなぐ木造住宅のデータ連携



CEDXM ファイルを活用することで、異なるCAD同士が双方向で効率よくデータ連携できます。

CEDXM(木造住宅CAD/CAMデータ連携標準化仕様書)が制定され24年、このCEDXMファイルの本格的な普及を目指して特定非営利活動法人として活動を開始してから2025年で17年目になります。ファイルバージョンはVer.10まで進化し、対応CADメーカーもより精度よく連携できるように開発を続けています。また、近年ではBIM連携に必要なIFCファイルの取り込みや作成、非住宅木造建築物へ連携拡大、業界でのDX化への取り組みへの貢献、寄与に向けて積極的に取り組んでいます。

CEDXMファイル対応CAD、ユーザー向け活用マニュアル等はホームページからご覧いただけます

CEDXMファイルの出力が可能プレカット工場の集約集約!